第42回（令和７年度）

山崎賞授賞式

日 時　令和８年２月22日(日)
午後１時

場 所　静岡県職員会館
（もくせい会館）

公益財団法人　山﨑自然科学教育振興会

アドレス　http://yamazakizaidan.com

式　次　第

1．開　　　式

2．あ い さ つ　　代表理事　　丹　沢　哲　郎

3．選考経過報告　　選考委員長
県立吉原高等学校長・県理科教育協議会長
佐　田　恵　子

4．授　　　賞　　児童・生徒の部
学　校　の　部
教　員　の　部

5．研 究 紹 介
◎地球にやさしいエネルギーを作りたい！ Ⅲ
浜松市立中郡小学校 6年　　袴(はかま)　田(た)　知(はる)　生(き)

◎ひずむと熱が発生する イオの火山の不思議 5
静岡大学教育学部附属
浜松中学校 3年　　柴(しば)　田(た)　千(ち)　歳(とせ)

◎トウヨシノボリ池沼型の形態学的特徴
静岡理工科大学
静岡北高等学校 3年　　山(やま)　村(むら)　悌(とも)　公(き)

6．来 賓 祝 辞　　県教育委員会
教 育 長　池　上　重　弘

7．閉　　　式

ご あ い さ つ

このたび第42回山﨑賞を受賞された皆さん、日頃より科学研究に熱心に取り組み、応募の上受賞されたこと、心よりお喜び申し上げます。また、受賞者の研究を様々な形で支援いただいた関係の皆さまにも、感謝申し上げます。

本年度は全体で177件の応募があり、昨年度に比べて12件の増となりました。特に、教員や学校の応募が減少したにもかかわらず、小・中・高校生の応募が19件増え、将来の科学・技術系人材の育成という観点から大変嬉しく思っているところです。結果として66件の研究に対して、ここに賞を授与することといたしました。

ここで、今回の応募に関して、いくつか感じたことを述べたいと思います。

一つは、科学研究の過程（科学的探究の過程）をきちんと踏まえた、説得力ある研究が多かったことです。科学研究の特色や強みは実証性と論理性、そして再現性にあり、その点で、受賞された研究では、実験や観察が繰り返され、時に実験装置を自作して、データに基づき丁寧に疑問が紐解かれていました。また、結果に基づいて新たな疑問が提示されている研究に対しても好感を持ちました。自然科学というものは、一つ疑問が解決されると、予想しなかった新たな疑問が生まれるものです。それらを逐次解決していく研究がありました。

二つ目は、上記と関係するのですが、複数年にわたる継続研究が多く目についたことです。研究対象への関心の高さとその継続性、研究への熱意の表れと思われますが、これは私たちも歓迎するところであり、今後もそれら新しい成果を応募いただければと思っています。自然科学の研究には長い時間が必要とされます。そのほとんどの時間は失敗に費やされます。失敗から学びつつ、都度研究成果を発表・蓄積しながら前に進みます。同様の体験を皆さんにも経験いただきたいのですが、応募にあたっては、どこからが新しい取り組みで新たな知見なのかをきちんと示してください。そこを私たちは評価いたします。

最後は、私たちの生活環境の持続性に関する研究が多く目についたことです。いわゆる持続可能な社会の構築に関わる研究です。特に小中学生の研究にそれが多く見られました。自然科学研究の基盤を確かなものとする研究（基礎研究）は必須であり、私たちはそれを奨励いたしますが、同時に、危機的な状況にある自然環境を改善することは、今後の自然科学の向かう方向性として重要であると考えています。

このたびの山﨑賞選考に関しては、佐田選考委員長をはじめ、22名の先生方に審査をいただきました。研究レベルの高さを反映し、審査には例年になく多くの時間がかかりました。日頃多忙な中、審査に尽力いただいた先生方には、この場を借りて心よりお礼申し上げ、私からのご挨拶といたします。

令和８年２月22日

公益財団法人　山﨑自然科学教育振興会

代表理事　丹　沢　哲　郎

総　　評

第42回山﨑賞選考委員会　選考委員長
県立吉原高等学校 校長　佐田恵子

第42回山﨑賞の受賞、誠におめでとうございます。今年度の応募件数は、小学校、中学校高等学校をあわせて177件であり､昨年度の165件を小幅ながら上回る応募件数となりました。審査においては、財団の目的である「静岡県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における自然科学の教育及び研究の振興を図り、もって静岡県教育文化の発展に寄与すること」を踏まえ、研究成果が優れ、今後さらに研究の推進と新たな効果が期待されるものを選考基準として審査を行いました。児童・生徒・教員・学校における今後の研究活動が、より活性化されることを期待いたします。

分野別の応募状況は表に示すとおり、例年同様いずれの校種においても生物領域に関する研究が最も多い分野でした。特定の分野に囚われず分野横断的な取組も視野に入れながら、科学的なものの見方･考え方･態度に基づいた研究が、今後さらに深まることを期待しています。

学校種	物理	化学	生物	地学	数学	その他
小学校	8	9	28	1	0	2
中学校	4	3	23	5	0	12
高等学校	14	20	40	3	2	3

【小学校】

継続研究は27件で全体の57％を占め、前年度の成果を踏まえ、新たな疑問や視点から発展的に取り組む研究が多く見られました。低学年では身近な生活から疑問を見いだし、丁寧かつ綿密に探究する姿が印象的であり、こうした探究心を継続的に育成していくことが重要です。研究分野は生物・物理にとどまらず、環境・エネルギー問題への広がりも見られました。多くの研究が実証性・再現性・客観性を意識して進められ、自作器具の工夫や外部機関との連携も成果を高めていました。直接学び､確かめながら進める姿勢を高く評価しました。

【中学校】

生徒が興味をもった生物や事象を生かし、とことん追究するテーマ設定が多く、基礎的な事柄を徹底して調べる姿勢に今後の広がりを感じました。複数年にわたる継続研究では、成果をもとに新たな疑問を生み、粘り強く探究している点も評価できます。

ＳＤＧｓを意識した研究や身近な事象に関する研究も多く、さらなる深まりが期待されます。多くの研究が仮説・検証の過程を踏んで進められ、専門家の協力により内容の精度も高まっていますが、高度化に伴い、理解を伴った探究であるか留意したいところです。

【高等学校】

先行研究への関心をもとに独自の視点を加え、仮説を立てて進める研究が目立ちました。探究の過程を踏まえ、論文の体裁が整ったものが多く、全体として質の向上が感じられました。一方で、試行錯誤が乏しく深まりに欠けるものや、サンプル数が少なく再現性に課題の残る研究も見られました。また、先行研究と今年度の成果の区別や、オリジナルな視点・目的をより明確にする必要もあります。今後は伝えたいポイントを絞り、研究の意義がより伝わる表現への工夫を期待します。

【学校・教員】

防災指導を理科と関連させた研究では、ジオパーク等を活用した体験的活動を取り入れることで、座学では得られない学びの成果が見られました。また、次期学習指導要領を意識した研究もあり、すべての受賞研究から、教育実践者としての熱意と研究者としての力量を感じました。

第42回山﨑賞授賞者名簿

児童・生徒の部

(1) 小　学　校(16件)

最優秀賞

番号	研究主題	学校名	学年	氏名	指導者
1	地球にやさしいエネルギーを作りたい！ Ⅲ	浜松市立中郡小学校	6	袴田知生	長谷川拓郷

優秀賞

番号	研究主題	学校名	学年	氏名	指導者
1	カイコでかなえよう！ＳＤＧｓ	沼津市立愛鷹小学校	4	小池朔人	清正峰子
2	トノサマバッタの研究 6	磐田市立長野小学校	6	竹内一心	鈴木康子
3	ホルモン剤でミニトマトの収穫量は増えるか	磐田市立磐田西小学校	6	礒部結衣	鈴木圭介
4	ぼくのひまわり 6 ～効率よく大きく育てるには～	浜松市立雄踏小学校	6	有薗朋希	植田和章
5	湿地におけるヨシノボリなどの生息環境	静岡サレジオ小学校	6	森谷陶人	土田隆仁

優良賞

番号	研究主題	学校名	学年	氏名	指導者
1	輪ゴムを遠くに飛ばしたい ～音ってふしぎ～	浜松市立泉小学校	4	芳賀夏帆	勝谷みちる
2	ナミアゲハとアゲハの仲間の研究	浜松市立和田小学校	4	住川睦実	中西　伸
3	気孔から見た植物の進化	浜松市立東小学校	6	縣 ひかる	栢植亮佑
4	セミの研究 Part 5	浜松市立雄踏小学校	6	飯尾明香里	植田和章
5	熱中症にならないぞ！④	袋井市立袋井西小学校	5	川村愛莉	鈴木旬一
6	腐葉土バイオ発電池の研究	藤枝市立高洲南小学校	5	中山陽葵	小林美奈
7	ミウラ折の折り方による開き方変化の検証	静岡市立森下小学校	5	土井智陽	井出史奈
8	ジャガイモの親が育った記憶は子に残るの？	袋井市立袋井南小学校	6	朝比奈佐弥	金原昌之
9	「横に動くとどうなるの？」 ～地震後の建物を見て～	静岡市立清水入江小学校	5	杉山和優	土肥真由美
10	液体電池 身近なもので電力開発！	焼津市立和田小学校	6	伊久美友哉	杉山智志

⑵ 中　学　校(16件)

最優秀賞

番号	研　究　主　題	学　校　名	学年	氏　名	指導者
1	ひずむと熱が発生する イオの火山の不思議 5	静岡大学教育学部附属 浜松中学校	3	柴田千歳	中澤祐介

優秀賞

番号	研　究　主　題	学　校　名	学年	氏　名	指導者
1	ジャコウアゲハの蛹化成長カーブについて	焼津市立大村中学校	1	青木　聡	大塚昌裕
2	ナメクジの研究 学習・粘液・再生能力編	袋井市立袋井中学校	2	鈴木美玲	村岡明日美
3	救えプラスチックごみだらけの地球 パートV	静岡大学教育学部附属 浜松中学校	2	落合晃馬	中澤祐介
4	佐鳴湖の底泥改善実験	浜松学芸中学校・高等学校	1	今原　良	伊藤信一
5	なぜ地点によって蛇紋岩の色が異なるのか	静岡大学教育学部附属 静岡中学校	2	小泉尚志	糟屋晃久

優良賞

番号	研　究　主　題	学　校　名	学年	氏　名	指導者
1	アカガエル２種の繁殖条件とすみわけ	浜松市立可美中学校	3	伊藤壮太	藤森文臣
2	STOP 地球温暖化 part 7	浜松市立雄踏中学校	3	飯尾晄太	増田悟子
3	ダンゴムシの巨大化プロセスの解明	静岡サレジオ中学校	3	片山瑠唯 ほか３名	森下　廉
4	イシクラゲの研究 part 4	御前崎市立浜岡中学校	2	河原﨑 希	宮下滉平
5	坂口谷川周辺の生物⑤ ～ホタルの発生数と要因～	牧之原市立榛原中学校	3	吉添太惺	豊島拓哉
6	ぼくの都市鉱山物語 ～金抽出編～	静岡大学教育学部附属 浜松中学校	3	内山楓雅	中澤祐介
7	イモリの研究Ⅳ 謎を読み解く集大成	静岡大学教育学部附属 島田中学校	2	伊藤映人	大久保正樹
8	佐鳴湖における底泥改善研究	浜松市立蜆塚中学校	2	齋藤晴太	近藤崇之
9	高草山自然環境調査 Ver.1	焼津市立東益津中学校	2	川合来夢	増田俊彦
10	カナヘビはカマキリを敵だと判断したのか４	静岡市立東豊田中学校	2	佐藤僚星	兼高和奏

⑶　高　等　学　校（26件）

最優秀賞

番号	研　究　主　題	学　校　名	学年	氏　名	指導者
1	トウヨシノボリ池沼型の形態学的特徴	静岡理工科大学 静岡北高等学校	3	山村悌公	塚越汐里

優秀賞

番号	研　究　主　題	学　校　名	学年	氏　名	指導者
1	教室の最適な座席配置の発見	静岡市立高等学校	2	村田瑞樹 石川　竜	伴野公俊
2	ＢＺ反応にメタノールが与える影響の要因	静岡市立高等学校	2	篁　思歩 安本帆志	井出悠斗
3	シマミミズによるプラスチック問題の解決	静岡市立高等学校	2	大倉和真 山口　蘭	仲村達弥
4	静岡市安東自噴帯における地下水の挙動	県立静岡高等学校	1～3	福士玲青 ほか３名	杉本恭規
5	泥電池の音による発電量向上と実用化の検討	浜松市立高等学校	2	小野田慶都 ほか３名	矢頭　勇
6	コジュケイの音声コミュニケーション	浜松学芸中学校・高等学校	2	水谷架士羽 ほか２名	伊藤信一
7	砂漣形成メカニズムと湿潤環境下での安息角	浜松学芸中学校・高等学校	1～2	宮野智矢 ほか２名	伊藤信一
8	微生物・植物発電の効率化の追求	県立浜松工業高等学校	2～3	堀川　星 ほか３名	鈴木善之
9	スギナに見られる蛍光成分Ⅴ	県立磐田南高等学校	2	稲垣遼太郎 ほか２名	立石紀子
10	蒸気機関の作製	藤枝明誠高等学校	1	河村優成 ほか３名	森　博美
11	ルミノール反応の効率化	県立清水東高等学校	2	沼尻和真	押尾純也
12	置換インジルビンの吸光特性	浜松日体高等学校	1	平井真桜 ほか６名	河合克仁
13	海中清掃による釣りゴミの回収とGIS 解析	県立焼津中央高等学校	1～3	谷澤陸斗 ほか 12 名	矢追雄一

優良賞

番号	研　究　主　題	学　校　名	学年	氏　名	指導者
1	水耕栽培におけるAMF共生Ⅴ	県立磐田南高等学校	1～2	武田海利 ほか３名	立石紀子
2	硫黄島軽石の色の違いの原因解明と考察	県立磐田南高等学校	1～2	林　弘毅 ほか２名	榑松宏征
3	ヌートリアの繁殖戦略と環境的背景	県立浜松北高等学校	1	山下颯梧	佐藤他加志
4	ゲーミング反応での色のグラデーション変化	静岡市立高等学校	2	佐々木敬斗 山脇帆南	小野田 恵
5	乳酸菌等代謝産物の植物成長促進と画像解析	常葉大学附属常葉高等学校	2	石田愛里彩	篠崎　絢
6	シクロデキストリンの抱接量の変化	県立清水東高等学校	2	大山京香 ほか２名	押尾純也
7	酸化チタン表面の酸素原子拡散・吸着特性	浜松学芸中学校・高等学校	1～2	大石晴登 ほか４名	村上　拓
8	酸化膜構造に由来するビスマスの色の定量化	浜松学芸中学校・高等学校	1～2	山田耕平 ほか４名	村上　拓
9	ミツバチは花粉と蜜をどこから集めてくる？	浜松学芸中学校・高等学校	1～2	是賀柳之介 ほか６名	伊藤信一
10	種子への酸・アルカリ処理による花弁変化	浜松学芸中学校・高等学校	1	有薗彩奈	伊藤信一
11	魚油を使った高性能石けん作り	県立韮山高等学校	2	塚田　昊 ほか２名	冨川友秀
12	ミニ四駆のダウンフォースの数値化と可視化 第二報	県立静岡東高等学校	1～3	德田花奈実 ほか３名	稲垣聖二

学 校 の 部

(1) 高 等 学 校(2件)

最優秀賞

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	校種を超えた理科探究活動と地域連携２	県立下田高等学校	教諭	荻野真宏	山崎文則

優秀賞

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	駿府城の周辺への在来ホタル定着を目指して	静岡雙葉高等学校	教諭	吉村知子	林 健久

教 員 の 部

(1) 小 学 校(1件)

優良賞

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	伊豆半島ジオパークの流体実験と地質学習	加藤学園 暁秀初等学校	教頭	中原 悟	加藤奈都子

(2) 中 学 校(2件)

優良賞

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	中学校理科でのプロジェクト指向の単元構想	伊豆市立伊豆中学校	教諭	大川翔平 ほか２名	駿藤 衛
2	中核的概念を活用した「探究型科学館」授業	菊川市立岳洋中学校	教諭	栃山裕策	山崎公男

(3) 高 等 学 校(3件)

最優秀賞

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	地域環境を活用した地学教材の開発	浜松学芸中学校・高等学校	教諭	伊藤信一	内藤純一

優秀賞

番号	研究主題	学校名	職名	氏名	校長氏名
1	エンドウマメ(豆苗)の教材利用	県立三島北高等学校	教諭	鈴木剛志	松下明子
2	自ら判断し、立ち向かう力を育む情報科教材	浜松学芸中学校・高等学校	教諭	村上 拓	内藤純一

第42回山﨑賞
応募件数　及び　授賞件数

(1)　応募件数

区　　分	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
児童・生徒	4 7	4 5	7 5	1 6 7
学　　校	0	0	3	3
教　　員	1	2	4	7
計	4 8	4 7	8 2	1 7 7

(2)　授賞件数

区　　分	小 学 校	中 学 校	高等学校	計
児童・生徒	1 6	1 6	2 6	5 8
学　　校	0	0	2	2
教　　員	1	2	3	6
計	1 7	1 8	3 1	6 6

(3)　授賞の内訳

校　種	小 学 校			中 学 校			高等学校			合　計		
	児童	学校	教員	生徒	学校	教員	生徒	学校	教員	児童･生徒	学校	教員
最優秀賞	1	0	0	1	0	0	1	1	1	3	1	1
優 秀 賞	5	0	0	5	0	0	13	1	2	23	1	2
優 良 賞	10	0	1	10	0	2	12	0	0	32	0	3
計	16	0	1	16	0	2	26	2	3	58	2	6

第42回山﨑賞選考委員

区　分	氏　　名	職　名	所　　　属
委 員 長	佐田　恵子	校　　長	県立吉原高等学校
副委員長	鈴木　広隆	校　　長	県立沼津工業高等学校
〃	板倉　信博	校　　長	袋井市立浅羽北小学校
〃	横井　靖二	校　　長	浜松市立和田小学校
委　員	熊谷　　仁	副 校 長	県立富士東高等学校
〃	石原　隆博	教　　頭	静岡市立新通小学校
〃	清水　昌和	教　　頭	静岡市立東中学校
〃	大杉　信吾	教育主幹	県教育委員会高校教育課
〃	市川　雄三	班　　長	県総合教育センター
〃	高木　　聡	教育主査	県総合教育センター
〃	深谷　陽平	教育主幹	県総合教育センター
〃	鈴木　智博	参　　事 （指導主事）	静西教育事務所
〃	長島　　渉	指導主事	静岡市教育委員会教育センター
〃	中村　啓太郎	指導主事	浜松市教育委員会学校教育部浜松市教育センター
〃	横田　亜紀子	教　　諭	県立掛川東高等学校
〃	新村　誠章	教　　諭	県立浜松湖東高等学校
〃	加藤　啓一郎	教　　諭	湖西市立東小学校
〃	油井　和哉	教　　諭	島田市立初倉中学校
〃	杉本　朱里	教　　諭	浜松市立可美小学校
〃	外川　恵実	教　　諭	沼津市立門池小学校
〃	佐野　晴奈	教　　諭	沼津市立門池中学校
〃	今田　　彬	教　　諭	浜松市立開成中学校

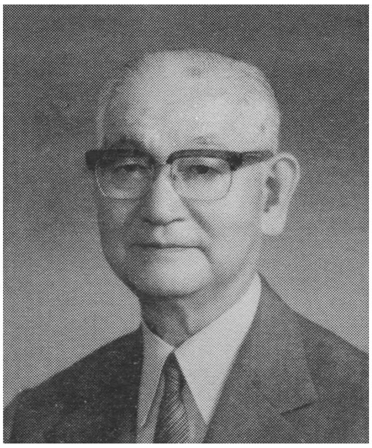
公益財団法人
山﨑自然科学教育振興会役員

役　名	氏　名	現職・元職名
代表評議員	西原　茂樹	前牧之原市長
評議員	増田　俊彦	元静岡科学館館長
〃	熊野　善介	静岡大学名誉教授
〃	渡邊　裕也	元 TDK ㈱ 社員
〃	植田　博巳	前牧之原市議会議員
〃	川内　十郎	静岡新聞社 論説委員
〃	安倍　　徹	元静岡県教育長
代表理事	丹沢　哲郎	静岡大学名誉教授
理事	横澤　幸仁	元常葉大学特任教授
〃	松浦　眞一郎	元長田東小学校長
〃	鈴木　三喜	元三島北高校長
〃	永田　　研	元常葉大学特任准教授
〃	小林　公子	静岡県立大学教授
〃	武田　麻里子	元長泉小学校長
〃	塩﨑　克幸	前静岡県教育監
監事	鎌田　英巳	元静岡県職員
〃	河西　哲郎	元藤枝東高校長

公益財団法人
山﨑自然科学教育振興会事務局

役　名	氏　名	元職名
事務局長	野村　豊道	元牧之原市職員
事務局次長 兼会計担当	松﨑　光明	元 TDK ㈱社員

公益財団法人　山﨑自然科学教育振興会のあらまし



財団創立者　山﨑貞一

1．設立の経緯

山﨑貞一TDK株式会社第2代社長（牧之原市出身）は、少年少女の科学する心の芽生えを育てることを願い、昭和58年私財を投じて「財団法人山﨑自然科学教育振興会」を設立した。現在は、財団の名称を「公益財団法人山﨑自然科学教育振興会」と変更し活動を続けている。初代の理事長は実弟の元静岡県議会議長 山﨑勝二氏です。

2．財団の事業

少年時代から科学する心の芽を育て、科学性・創造性豊かな青少年の育成をめざして、以下の事業を行っています。

1. 顕彰事業　（成果を重視して表彰する山﨑賞）
2. 助成事業　（研究する意欲を援助する助成金）
3. 啓発事業　（科学教室の開催、講師派遣、講演会・研修会支援）

3．これまでの実績

1. 顕彰事業　（山﨑賞）　1～42回

児童・生徒　1,886 件	学校　151 件	教員　242 件
副 賞 金 額	117,500,000 円	

2. 助成事業　（研究助成）　1～39回

児童・生徒　750 件	学校　204 件	教員　216 件
助 成 金 金 額	114,928,000 円	

3. 啓発事業　（令和7年度）

科学教室　（伊東市、焼津市、浜松市、牧之原市）
講師派遣　（浜松市③、沼津市、静岡市、磐田市）
講演会・研究会　（浜松市、静岡市②、藤枝市）